

令和5年度帯広畜産大学別科学校推薦型選抜

「作文」試験

(試験時間60分)

農林水産省の農業労働力に関する統計によると、毎年5万人規模の新規就農者があるが、基幹的農業従事者^(注1)の数は、毎年5~8万人規模で減少し、令和4年では122.6万人となっている。すなわち、離農者数が新規就農者数を大きく上回り、農業労働力の回復の兆しはまったく見えない。その中で、農業における様々な働き方として、従来の兼業農家に加えて、半農半X^(注2)、パラレルノーカー^(注3)などの提案がなされている。これらの提案が、日本の農業振興にどのように貢献するのか、あるいは、しないのか、自分の考えを800字程度で述べなさい。

【語句説明】

(注1) 基幹的農業従事者：

ふだん仕事として主に自営農業に従事している者。

(注2) 半農半X (はんのうはんえっくす)：

京都府の塩見氏が提唱してきたライフスタイルで、自分や家族が食べる食料は自給農でまかない、残りのXは自分のやりたいことに費やすという生き方。

(注3) パラレルノーカー：

パラレル、つまり並行して複数の仕事をし、収入を得る働き方。「パラレルワーカー」をヒントにJAグループ北海道がつくった造語。人手不足の解消につなげようとこれまで農業とかかわりが薄かった人に副業(複業)として農業現場の新たな担い手になってもらうことを目的としている。